

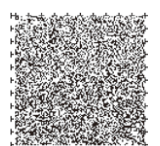


じゅうしょう しんしん しょう 重症心身障がい

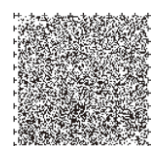
じゅうど したい ふじゆう じゅうど ちてきしょう ちょうふく しょう にちじょうせいかつ じぶんひとり
 重度の肢体不自由と重度の知的障がい重複している障がいです。日常生活を自分一人で行うこ
 とが困難で、移動や食事、入浴、排せつ、寝返りなどの面で介助が必要です。食事が口からとれず胃
 ろうから栄養を入れる、呼吸を助けるための人工呼吸器の使用など、医療的ケアを必要とする場合
 もあります。この中でも特に多くの医療的ケアが日常的に必要とされる方は超重症児・者と言います。

しょう しょう たい 障がいの状態

- し せい じりき** 姿勢…自力では起き上がることが困難なため、ほとんど寝たままです。
- こう しゆく** 拘縮…まひなどにより、長期間、自分の意思で手足を動かすことができなくなると、関節の可動範囲が狭くなります。
- きん きん ちよう きよくど きんにく きんちよう おも** 筋緊張…極度に筋肉が緊張し、思うように手足を動かすことができません。
- てんかん**…重症心身障がい児の約60~70%の方に、てんかんがあります。てんかんは、脳の神経の一部が活発に活動しすぎるために起きる病気です。
- ご 誤 えん**…口から取り込んだ食べ物や水分をうまく食道に送ることができず、誤って気管に入ってしまうやすいです。その結果、肺炎や気管支炎になりやすいです。
- きゆういん たんの吸引**…気管切開をしている方や自力でたんを出すことができない方は、介助者などがたんの吸引をする必要があります。



▲目の不自由な方のための音声コード



▲目の不自由な方のための音声コード



はいりょ 配慮

こんなサポートがうれしい!

かいじょしゃ えがお やさ
 介助者とともに、笑顔のあいさつや優しく話しかけられることがとても嬉しいです。

ほとんど話すことができず、言葉による理解や意思の伝達が困難なためわかっていないと思われることがあります。言葉で話せなくても感じる心は同じです。意思表示は、口や目の動き、笑顔などの表情で表現できます。あいさつなどの声掛けから、ふれあいを大切に優しく話しかけてください。

しょくじ さい
 食事の際は、ハサミやミキサーの貸出しがあると助かります。

かむ力や飲み込む力が弱く通常の食事が食べられない場合は、細かく刻んだりトロミを付けたりして食べています。店舗・施設などで食事の際は、介助用の取り皿やスプーン、ハサミやミキサーなどの貸し出しに協力してもらえると助かります。

い どう こま
 移動するとき、困っているように見えたら、声を掛けてください。

移動するときは、介助者にかかえてもらったり、車いすなどを使用します。本人の体が大きい場合や医療機器を持ち運ぶ必要がある場合、介助者の負担はより大きくなります。少しの距離、段差であっても、移動に人手が必要そうに見えたら、「お手伝いすることはありますか。」と声を掛けてください。

い どう ひろ
 移動するときは、広いスペースが必要です。

車いすやバギー(リクライニングできる車いす)、人工呼吸器やたん吸引装置も積んだストレッチャー(寝かせたままで移動できる車輪付きのベッド)で移動するので、駐車場や施設の通路、エレベーターなどでは広いスペースが必要です。近くを通るときやエレベーターに同乗するときは、配慮してください。

じれい 事例

たとえば、こんなことがあります。

障がいのある方の中には、学校や施設で「ムーブメント教育(療育)」を受けている方もいます。これは、パラ・バルーン(直径3mから8mの円形の軽い布)やスカーフなどの遊具を使って運動したり、周りの人たちとのかかわりを楽しんだりする学習です。他の児童や介助者と一緒に行動することで、自主性、社会性などを育てています。重い障がいがあっても、自分の意思で行動し、コミュニケーションをとることができることを知ってください。



パラ・バルーンを使った学習

※ご相談・お問い合わせ先は、障がい福祉関係団体一覧(P46)又は相談機関一覧(P48)をご覧ください。